

6. むすび

地震調査研究推進本部（以下、「地震本部」という。）では、平成17年8月に策定した「今後の重点的調査観測について（―活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方―）」に基づき、活断層帯の重点的な調査観測を推進している。さらに、地震本部では、平成21年4月に策定し、平成25年3月に改訂した「新たな活断層調査について」において、必要とされる活断層調査に関する基本方針や実施方法等についてとりまとめるとともに、重点的調査観測の対象候補となる活断層帯を明記している。この選定基準に該当する森本・富樫断層帯（以下、本断層帯）の重点的な調査観測（以下、本調査観測）を開始した。

本調査観測では、対象断層帯の長期評価、強震動評価の課題を踏まえ、本断層帯における地震規模及び長期的な発生時期の予測精度の高度化、周辺断層帯との関係、断層帯周辺における地殻活動の現状把握の高度化、強震動の予測精度の高度化等を目指している。このため、本調査観測では、1) 活断層の詳細位置・形状・活動性及び周辺の地下構造解明のための調査として、1. 1) 活断層の詳細位置・形状・活動性解明のための調査、と、1. 2) 重力探査に基づく地下構造調査、2) 断層帯周辺の地殻活動の現状把握調査、3) 浅部・深部統合地盤構造モデルの構築と強震動予測として、3. 1) 浅部地盤構造モデルの構築、3. 2) 深部地盤構造モデルの構築と強震動予測、の5つのサブテーマ研究グループを構築して、調査観測を進めるとともに、これらの活断層調査の実施に際して、関係自治体等と連携を図るとともに、調査観測成果を地域へ普及・還元する観点から、4) 地域連携・地域の内在地震ハザード情報共有、のサブテーマを設定した。

初年度にあたる令和4年度は、各研究サブテーマにおける既往研究の情報整理を踏まえた調査観測を計画・実行し、令和4年度報告書としてとりまとめた。第2年度にあたる令和5年度においては、各サブテーマで検討すべき課題に関して、調査観測を進めて解決へ向かうとともに、ここまでのサブテーマ毎の調査観測成果をサブテーマ間で情報共有し、各サブテーマの調査観測への有効活用を推進する。

最後になりましたが、令和4年度の本調査観測を行うにあたり、調査対象地域である石川県、富山県等の関連機関の皆様には調査観測の実施、地域勉強会等に関してご協力いただきました。また現地調査では地権者の皆様にも便宜を図っていただきました。ここに記して深謝申し上げるとともに、引き続きのご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。